

福祉医療機構ソーシャルボンドの購入について(令和6年12月20日)

千代田区では、令和6年12月20日、基金の運用を通じて SDGs への寄与、社会貢献につなげていくため、独立行政法人福祉医療機構が発行するソーシャルボンドを購入しました。

SDGs（持続的な開発目標）は、国連が提唱したよりよい社会の実現を図る世界共通の目標で、社会、経済、環境の面から 17 の目標が定められています。

SDGs 債は、これらの目標の実現のためのプロジェクトに資金が活用されるもので、ソーシャルボンドは、社会的課題の解決を目標としています。

福祉医療機構は、政府の全額出資による独立行政法人です。福祉・医療に関する事業を一体的に実施することで、地域の福祉と医療の向上を目指して民間活動を支援しています。同機構のソーシャルボンドは、特別養護老人ホーム、保育所、障害のある方を支援する施設などの社会福祉施設や病院、診療所などの医療施設等の整備に必要な資金等の融資（福祉医療貸付事業）に活用されます。

SDGs の目標では、「目標1：貧困をなくそう」、「目標3：すべての人に健康と福祉を」、「目標5：ジェンダー平等を実現しよう」の課題解決を目的としています。また、その目指す成果は、区の各種福祉施策との趣旨と合致します。

本債券は、国際資本市場協会(ICMA)の定めるソーシャルボンド原則に適合している旨の外部評価を格付投資情報センター(R&I)から取得しています。

福祉医療機構ソーシャルボンドの購入は、令和5年6月に続き、合計3回目となります。千代田区は、今後も福祉医療機構ソーシャルボンドをはじめ、SDGs 債への投資で基金の一部が活用されることにより、SDGs の実現を目指していきます。